

変事なりけ。郡下より以て海山に登せり。
に時晴の天幸傳は差れ来り。百千の雷同
は鳴るがごとく人吏おれて山上(坐る
事を怠む山半より立降る。け日余月々の若
素宿し命を授んとし。りる事誰も志る事
なり。け。郡二度山上に登せし親者きこし立
至半の神意に叶ひぬ事を以りりゆ(や
郡の事を次へ。室積寺等の郡司池田監
おと云し。人も神なく。清閑後刑罪は現れ
又神位を中下し。り。翌年より山上二三年

焼中理郡に赤保の水田を害せし。元内は毒
水の流れよりさとい(たそ。万豊年なり。す
飽海郡の人民ハ刑と飢饉の苦を志り。三
代実録を以て上告け。山の焼しを考れむ
神の志ぬまやと心ある人ハ私云々れとも
玉府は神后を敬むる人なく。理字若流疏貫
の筆よて山を焼なり。孫しり。む。と。い。く。福し
られ。ハ。君。なる。もの。ハ。神。敬。神。の。心。も。なり。
さ。そ。吹。浦。より。も。神。位。の。神。中。上。神。祇。長
上より既し。天幸(も。内。奏。と。あり。り。た